

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーに輝きを  
Light Up Rotary



寛容の心で、  
ロータリーの輪を広げよう

国際ロータリー会長 ゲイリー C. K. ホアン 2014～2015  
富津中央RC会長 若鍋 武良  
国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2368 第19回例会 2015. 11. 11 曇

移動例会 かずさアカデミアホール

## 会長挨拶

若鍋武良 会長



皆様こんにちは。

国際ロータリー第2790地区第4分区のIMが、ホストクラブの上総ロータリークラブのもと開催されました。

かずさアカデミアホールにて講演とパネルディスカッションが、会場をアカデミアホテルに移しての懇親会が開かれ、地区役員・会員・諸団体の代表総数131名が参加、当クラブからも16名の会員が参加致しました。

リーダー基調講演では、講師の土屋亮平パストガバナーが『商工会議所とロータリー』という演題で、「自己の職業に打ち込むことがロータリー活動につながること、職業奉仕の大切さ等」を強調されました。続いて行われたパネルディスカッションでは『地域貢献活動と広報について』のテーマで、かずさ青年会議所・木更津法人会青年部・アクアラインイースト観光連盟・袖ヶ浦RC・千葉テレビの4名のパネリストが各々の活動を映像で説明されました。次世代のリーダーになるべく地元の若い方々の話を伺い、これからの活躍に期待しました。

IMについて一言

IM (Intercity Meeting) 都市連合会は、近隣都市の数クラブの連合例会で会員同士の親交・親睦

を深め、情報交換を行うものとされています。新年度が始まる前に開催される地区協議会に対し、IMは年度開始後に各クラブがその年の経験をもち寄り、情報を交換する場です。その内容は一般討論会であり、決議は下さない。各クラブは少なくとも毎年一回は都市連合会に参加することが奨励されています。1912年アメリカ・サンフランシスコとオークランドのクラブの成功例を前例として始められました。(『ロータリー入門書』他より)

## RI第2790地区第4分区IM

かずさアカデミアホール 14時～17時

主催:第4分区ガバナー補佐 野村進一

ホストクラブ:上総ロータリークラブ

## 点鐘・挨拶

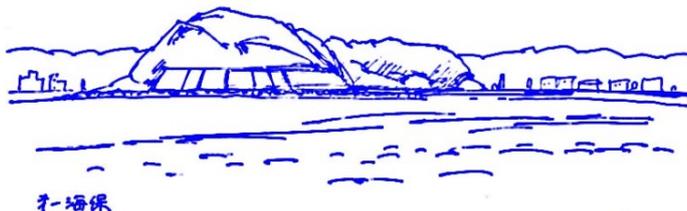
野村進一 ガバナー補佐



総勢131名の参加を頂き有難うございました。

宇佐美ガバナーの方針「活動の原点回帰」の下、地域組織

〒293-0042 富津市小久保2868  
さざ波館 Sazanami-kan  
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,  
Zip code 293-0042  
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



の充実と地域への広報活動にちからを入れたいと私も考えています。本日は実り多いIMにしてください。

### 開会の言葉・歓迎の言葉 紹介



直前ガバナー補佐へ感謝状及び記念品贈呈



### リーダー基調講演

土屋亮平 PG



次期ホストクラブ 富津ロータリークラブ



### パネルディスカッション

コーディネーター 白熊 大



会場風景



パネラー： かずさ青年会議所  
木更津法人会青年部  
アクアラインイースト観光協会  
袖ヶ浦ロータリークラブ  
千葉テレビ

テーマ： 「地域貢献活動と広報について」

### 閉会の言葉・点鐘

松井ホストクラブ幹事・野村ガバナー補佐

## 親睦懇親会 アカデミアオークラ平安の間

乾杯 神子 次期ガバナー補佐



## 出席報告

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	25/22	16	6		72.73%
前回	25/23	19	4		82.61%

## 投稿 私の趣味

高橋裕之



最近では、社会が熟成したためか所謂「趣味」が、かなり多様化しております。また、一貫して同じ趣味を続ける者、様々な趣味を掛け持ち、あるいは渡り歩く者と、これもまた多様性に富んでおります。

かく言う私は後者なのですが、ある程度の期間その趣味を続けて一様に思うことは、「ああ、こんな事だったら、もっと早く始めていれば良かった」「もっと長く続けていれば良かった」などと言うことです。

飽きっぽい性格のためか、同じ趣味を長く続けられず、やめた後に後悔する、若い頃から始めていた人を羨むというパターンです。年齢を重ねるにつれ、その後悔や羨望の思いが強まり、「もっと早く始めていれば良かった」と思っただけおりました。

ところが、何事にも転機や折り返し点というものはあるもので、老眼が進む最近になり、「今だから始められた。自分なりに楽しもう。」という気持ちに変わって参りました。ウインドサーフィン～麻雀～ヨット～ゴルフ？～バイク～サックスと主たる趣味は変わってきたのですが、趣味に向き合う心も変わってきたという話でした。

そんな訳で、皆さんもご承知の様に、現在、2年前の52歳から始めたサックスに、すっかり嵌まっているところです。まだまだ間に合うので、皆さんも是非何か始めてみて下さい。

## 投稿 思い出の写真



原田雅式  
「こんな時代もあったねと」# ♪～  
中島みゆきさんの歌ではありませんが、これは34～5年前の、7.5.3だと思います。髪の毛が懐かしいですね。(笑)

家族写真は余りありませんが、冠婚葬祭しか撮りませんからね。

## 投稿 「ベストインザワールド アルギン酸メーカー・キミカの挑戦」を読んで

須藤 隆

私がかつて製造業に勤務し、何度も企業が厳しい局面にさらされ、その都度局面打開に心血を注いで奮闘してきたことが走馬灯のようによみがえり、私の過去に思いを重ねながら本書を一気に読み終えた。

キミカ初代社長の笠原文雄氏は一橋大学を卒業して実家の笠原工業に入社。2度の徴兵令を受け戦地に赴くも、病に倒れ復員。療養のため君津郡周西村(現富津市青堀)の療養施設「静養園別館」に落ち着く。

青堀海岸でカジメを火にくべる光景を見て、笠原氏は「海藻に含まれる天然食物繊維のアルギン酸を抽出し、利用できないか」とふと閃いたと言う。

以来アルギン酸研究に情熱を注ぎ、「アルギン酸の工業的利用に関する研究で」文系大学出身としては初めて、東京大学工学部から工学博士の学位が授与される。笠原氏は研究者であり海藻科学の父として、又、創業経営者として羅針盤のない君津化学工業の基礎を築き、71歳の生涯を終えた。

この書の中で印象的な経営者を二人挙げたい。一人は人生の残りのすべてをチリに賭けると言っ、自らチリ行きを志願し、だれもがチリへの進出を不安視しているなか断固とその意志を貫いた当時常務の笠原万平氏である。

当時(1980年代半ば)としてはリスクを思案する以前にチリに工場を建設することなど想像すること

さえ難しかったと記されている。恐らく現在のキミカがあるのは、チリ工場のその後の発展のお蔭である。

この時管理部長であった現社長の笠原善文氏が万平氏の決意をしっかりと受け止め、グループ企業のトップに理解と協力を求めて動いたのは、彼の将来を展望する経営戦略の確かさを感じさせた。

もう一人は3代目社長になった笠原良平氏である。笠原良平氏が社長に就任した時に、現社長の笠原善文氏は常務取締役役に就任し、実質的な実務を託され、社長がその後ろ盾をする体制が敷かれた。その時社長が5項目の指示を出したが、私はその5項目の指示が君津化学工業を新たな出発点に立たせたと感じた。

それは「使わないものをすべて撤去し使っているものを完全な状態に整備する」「必要な資金は社長が担保になるから常務自ら銀行に行き申し込む」「グレーの作業服を止め、明るくカラフルなものに一新」「社員食堂を明るく清潔に整備」「従業員が君津化学の明るい将来を思い描けるスローガンを常務自信が考案し大きな看板にして考案する」この中に経営の心構えの要諦が含まれていることを強く感じた。

その後、チリ工場の火災など幾多の苦難を乗り越え、社長の笠原善文氏がしっかりと海外展開に必要な新たな人材を登用・確保しながらアルギン酸一筋の専門メーカーとして、「ベストインザワールド」を標榜し、グローバルな視点から世界戦略を着実に進めて、キミカを世界トップのアルギン酸メーカーに育て上げた。

まさに本書はキミカが幾多の苦難を乗り越えた発展史であり、ドキュメンタリーとして大変興味深く読ませてもらった。

## 編集後記

季節は秋から冬に駆け足で過ぎて行こうとしています。冬物のコートかダウンジャケットを用意する季節となりました。

熱燗で一杯も格別ですが、肌で感じる夜寒を和らげてくれるのは心を直接温めてくれる読書です。

この会報の投稿欄で胸を熱くして頂ければ幸いです。

E. M男